

1

次のそれぞれの文の——線部の、漢字は読み方をひらがなで、カタカナは漢字で書いて答えなさい。

- (1) 筋書きの通りに事が進む。
- (2) 生態系に影響が及ぶ。
- (3) 優美なしぐさにとれる。
- (4) 国家の安泰を願う。
- (5) ハリの穴に糸を通す。
- (6) 天井裏でネズミがアバれる。
- (7) シユウキヨウを信じる心が芽生える。
- (8) 知識をキュウシユウする。

2

次のそれぞれの問いに答えなさい。

- (1) 次の①～④の□に入る慣用句として最も適切なものをそれぞれあとから選び、記号で答えなさい。
 - ① この古書は、買うのに□ほど値段が高い。
 - ② 紹介してくれた人の□ように、実直に働く。
 - ③ 私からのプレゼントに、祖母は□と、何度も礼を言った。
 - ④ 悪事に□ような人と付き合つてはいけない。
- ア 目を細める イ さばを読む
ウ 二の足を踏む エ 手を染める
オ 顔が立つ カ 眉をひそめる
- (2) 次の①～④のことわざと似た意味のことわざを、それぞれあとから一つずつ選び、記号で答えなさい。
 - ① 弱り目にたたり目
 - ② 月とすつぽん
 - ③ 急がば回れ
 - ④ すずめ百まで踊り忘れず
- ア 三つ子の魂百まで イ せいては事を仕損じる
ウ 泣き面に蜂 エ 捕らぬ狸の皮算用
オ 弘法にも筆の誤り カ ちようちんにつり鐘
- (3) 次の①～④が()の意味を表す四字熟語になるように、□に入る漢字一字をそれぞれ書いて答えなさい。
 - ① 奇想□外(ふつうでは思いつかないほど、珍しいこと。)
 - ② 異□同音(多くの人が同じことを言うこと。)
 - ③ 無我□中(一つのこと没頭し、他のことを忘れること。)
 - ④ 有名無□(名前や評判がよくて、中身がないこと。)

3

次の短歌・俳句を味わい、あとの問いに答えなさい。

A 其子等に捕へられむと母が魂蛭と成りて夜を来たるらし

窪田空穂

B 山里は松の声のみききなれて風ふかぬ日は寂しかりけり

大田垣蓮月

C またや見む*交野のみ野の桜狩花の雪ちる春のあけぼの

藤原俊成

D ざぶざぶと白壁洗ふ若葉哉

小林一茶

E 蓮の茎散り方の花を支へたる

滝井孝作

F 空に透き紅葉いちまいづつならぶ

長谷川素逝

(注) 交野Ⅱ現在の大阪府の一部。

(1) A～Fの短歌・俳句について、字余りの句が含まれているものを一つ選び、記号で答えなさい。

(2) Aの短歌で描かれている情景の説明として最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

A 母の思いを知ることのない子供たちの無邪気な姿が描かれている。

イ 蛭となつても子供たちに会いたいと願う母の思いが描かれている。

ウ 母と会えるわずかな時間を楽しむ子供たちの姿が描かれている。

エ 子供たちを喜ばせるために蛭をつかまえる母の姿が描かれている。

(3) D～Fの俳句の中から、切れ字を一つ書き抜いて答えなさい。

(4) Dの俳句に用いられている表現技法として最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

A 倒置法

イ 対句法

ウ 擬人法

エ 体言止め

(5) Fの俳句で詠まれている季節を、漢字一字で書いて答えなさい。

(6) 次の①～③はB～Fの短歌・俳句のいずれかを説明したものです。それぞれの説明にあてはまる短歌・俳句を一つずつ選び、記号で答えなさい。

① 盛りが過ぎて崩れつつあるものを押しとどめる情景を描くことで、生命のはかなさと力強さが表現されている。

② 異なる季節のことはを並べること、情景が幻想的に描かれ、作者が受けた感動の大きさが読み取れる。

③ 自然の中で聞こえるはずの音が聞こえなかったときの、作者の満たされない心情が描かれている。

4

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

《光瀬一輝たち県立都川高校サッカー部員は、部内の練習試合を終えて集合しています。》

「集合！」と招集がかかり、センターサークルに整列した。「ありがとうございます！」と頭を深く下げた。

①「おまえら悪くねえな」

山田先輩が一輝の肩に手を回してきた。

「前半はディフェンスがガタガタだったけど、後半はよく立て直した。里見のスーパーセーブもすごかったが、館山が全部、シュートコースを限定してたからな。それに1年生もがんばった」

引退して、明日から練習には来ない山田先輩の声は晴れ晴れとしている。

生真面目な性格で、あまり人を褒めないのに、きょうに限ってはキーパーの里見と、ディフェンスの要、館山の名を挙げて賞賛した。二人とも、一輝や丈助と同じ二年生だ。

これまで試合にあまり出てこなかった1年生が、前半、足を引つ張ったが、里見の*コーチングと館山の*カバリングで持ち直した。一輝は、攻撃の最前線の選手だけれど、すごく頼もしく思える守備だった。山田先輩が褒めるのもよく分かった。

「それから、やつぱり言っておくが——」

山田先輩が一輝からいったん体を離し、丈助と一輝を交互に見た。「光瀬の体を張ったプレイと鈴木すずきの突破力。これは、すごいな。

二人の攻撃は、どんな相手でもビビるはずだ。自信を持って磨いていけよな」

「もちろんです。おれと丈助は、まだまだこんなもんじゃありませんから」

一輝は本当にそう信じていた。

中学で*2トップを張っていた時から、②一輝にとって丈助は特別な存在だった。

全然違うプレイスタイルなのに、お互いのことが分かる。相手を活かして、自分も活かす。そんなふうにごく自然に感じられた。

だから、丈助と一緒に、相手陣内の深くまで攻め込んだ時は、いつも、何かが起きる予感がする。どこまでも遠くに行けそうな気がする。

「まあ、天狗にはなるなよ。全国に行けば、すごいやつは掃いて捨てるほどいる」

「はい、忠告、承ります。でも、おれたちは、そういうすごいやつと出会いたい！」

山田先輩は、中学生の時に全中、つまり、中学生の全国大会出場経験がある。都川高校サッカー部の中では一番、「全国を知っている選手」だった。

その山田先輩がいても、高校での全国大会の壁は厚く、結局、県大会での敗退が続いている。都川高校はサッカーの名門というわけではなく、山田先輩が孤軍奮闘するだけではどうしようもなかった。

「おれも……一年、遅く生まれてれば、お前たちともう一回、全国を目指せたのにな……」

山田先輩がふいに遠くを見て、言った。

今の2年生は、全国経験はなくても、伸びしろがある。3年生よりももっとうまくなるし、強くなる。前に先輩がぼろつと言ったことがあった。ふだん厳しかったのは、すごく期待されていたからだ。③先輩が、もう一年遅く生まれてれば、と口にするなんて、胸が熱くなりつつも返す言葉に困った。

そういう巡りあわせというのはある。一輝にしても、丈助や今の

2年生と出会っていなければ、全国大会なんて口に出しても冗談にもならなかっただろう。もともと、今だって、実績はないわけだから、とことんチャレンジャーな立場だ。

「で、どうする？ 先生には、自分たちで決めろって言われた。

おれとしては、館山か光瀬だと思っている。あとは、どんなチームを目指すかだ。自分たちで決めるといい」

山田先輩が、腕に巻いていた黄色いキャプテンマークを取りはずした。

それで、理解した。

次のキャプテンを誰にするか。

館山の名前が出たのは分かる。ポジションも山田先輩と同じ守備的などところで、いつも全体を見ているし、冷静だ。顧問の大滝先生ともよく話していて、部長とのパイプ役にもなっている。だから、普通に考えると館山だ。今、山田先輩がやっていることを、そのまま引き継いでくれるだろう。

なのに、先輩は一輝の名前も同時に挙げた。

「いったい、なぜ？」

ほんの少しの間、みんな、黙り込んで、風の音が大きく聞こえてきた。

「やっぱ……」

一輝は声を出した。やっぱ、館山じゃないか……。

「一輝だろ」と先に言ったのは、館山の方だった。

「え、なんで」

「おまえ、よく言ってただろ。明るく楽しく勝ちまくるサッカー部って」

部って」

「ああ……」

それは、一輝にとって口癖みたいなものだった。ボールを蹴って、

75

ドリブルして、シュートして、楽しい。それがサッカーだ。小さい頃から、ずっとそうだった。

「きょうの試合だつてそうだ。おまえとやっていると、負けても底抜けに明るいサッカーになるよな。それって、へらへら笑って勝ち負けを気にしないってわけじゃなくて、よいところを伸ばして次につながるサッカーだと思っただよな。おれがキャプテンやったら、違ふふうになる。おれ、発想が減点主義だし。だから、おまえがやれよ」

一輝が返答に困っているうちに、まわりから拍手が巻き起こった。ユニフォームの袖が引つ張られた。

「イッキー」

いつのまにか丈助が隣にいて、強い目で一輝を見ていた。

「イッキがキャプテンだ」とうなずきかけてくる。

山田先輩が、黄色いキャプテンマークの腕章をこちらに向けて投げた。

「頼むぞ。来年こそ、*選手権行けよ」

「うっすー」

反射的に返事をして、キャプテンマークを握りしめた。

すると、体に力が満ちてきた。

三年生を送り出した後で、二年生、一年生で円陣を組んだ。

「よし、やってやろうぜ！ 選手権だけじゃない。関東大会も、*

インターハイも行くぜ！」

力強く声を合わせ、ここから始まる光り輝く日々を思う。

「ああ、そうだ。副キャプテンを誰にするか決めてなかった。おれとしては——」

一輝が言いかけた途中で、みんなの視線が一人に集中した。

「じゃあ、丈助で決まりだな。一輝とのコンビならそれがベスト

100

95

90

85

80

だと、おれも思っていた」

館山がまとめてくれた。

みんなが拍手する中、本人だけが黙り込んでしまったけれど、もともと口数は少ないから誰も不自然に思わなかった。

きつと、この先、想像できないほどの未来が、必ず待っている！
とにかくサッカーは楽しい。勝てばもっと楽しい。だから、いっぱい練習をして、よい準備をして、すべての試合に楽しんで勝つ！
キャプテンマークを巻いてみて、初めてそんなふう演説した。
みんなの目が輝いていた。低くなった真つ赤な太陽を宿して、比喩でもなんでもなく、目が燃えていた。

〈川端裕人「太陽ときみの声」より〉

(注) コーチングⅡここでは、選手がお互いに声を出して教え合うこと。

カバリングⅡここでは、守備の際に空いたスペースを選手が埋めること。

2 トップⅡ最前線での攻撃を二人の選手が担うサッカーの戦術。

選手権・インターハイⅡここでは、どちらも高校サッカーの全国大会のこと。選手権(全国高等学校サッカー選手権大会)は冬に、インターハイは夏に行われる。

(1) ———線①「おまえら悪くねえな」とありますが、このときの山田先輩の説明として最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア これまで厳しく接してきた今の二年生たちが、自分たち三年生よりもさらに上手くなるだろうと期待するとともに、自分が

サッカー部を引退することに清々しさを感じている。

イ キャプテンとしての威厳を保つために、これまで後輩たちを厳しく指導してきたが、サッカー部を引退することを機に後輩たちとのわだかまりを取り除こうと努力している。

ウ 練習試合の内容から、今の二年生たちが一年前よりも急成長していることがうれしく、これまで後輩たちに厳しく接してきた自分の指導は間違っていなかったのだと実感している。

エ 自分にとっての最後の練習試合が終わり、これまで一緒に戦ってきた後輩たちからの感謝の言葉に感動し、今日でサッカー部を引退することにさびしさを感じている。

(2) ———線②「一輝にとって丈助は特別な存在だった」とありますが、他のサッカー部員たちも一輝と丈助がよいコンビだと思っていることがわかる一文を本文中から探し、その最初の七字を書き抜いて答えなさい。

(3) ———線③「先輩が、もう一年遅く生まれてれば、と口にする」とありますが、山田先輩は、一年遅く生まれていれば、誰とどうすることができたと思っていますか。「〜こと。」という形で、二十字以内(句読点も字数に数えます)で書いて答えなさい。

(4) ———線④「一輝だろ」について、次のそれぞれの問いに答えなさい。

① 館山が新キャプテンに一輝の名前を挙げたのは、自分のどんな点がキャプテンにふさわしくないと思ったからですか。最も適切なことばを「である点」に続く形で、本文中から七字で書き抜いて答えなさい。

② 都川高校サッカー部は、一輝が新キャプテンに就くことで、どんなチームになると考えられますか。次から適切でないものを一つ選び、記号で答えなさい。

手段を選ばない非情な存在として描かれている。

(これで問題は終わりです)

- ア 敗戦を糧にして選手の長所を伸ばしていくチーム。
 - イ 試合に負けていてもよくよせずにプレイするチーム。
 - ウ 楽しくをモットーに、試合に勝ち続けられるチーム。
 - エ 勝ち負けを気にせず、いつも笑顔が絶えないチーム。
- (5) 本文中の一輝についての説明として最も適切なものを次から選
び、記号で答えなさい。

- ア 山田先輩が自分のサッカーに対する姿勢や人間性を高く評価していることを知り、チームを率いることに重圧を感じている。
 - イ 部員たちからキャプテンの役目を押し付けられて困っていたが、これを機会に自分自身が成長できると思い直している。
 - ウ 今まで、都川高校サッカー部の攻撃陣を引っ張ってきたという自負から、欠点を挙げずけと言う山田先輩に反発している。
 - エ チームの新キャプテンに指名されたときは戸惑っていたものの、丈助や館山に後押しされ、体中にやる気がみなぎっている。
- (6) 本文中の人物についての説明として最も適切なものを次から選
び、記号で答えなさい。

- ア 一輝と山田先輩が、部員たちの長所を伸ばすリーダーとして描かれているのは対照的に、丈助と館山は、いつでもチームを落ち着いてサポートする存在として描かれている。
- イ 一輝と丈助が、幼い頃からサッカーの才能にあふれた選手として描かれているのは対照的に、山田先輩と館山は、努力を重ねてレギュラーをつかんだ選手として描かれている。
- ウ 館山が、チーム全体の状況を客観的に捉える冷静な人物として描かれているのは対照的に、一輝は、チームの士気を高める目標へと導いていく熱血漢として描かれている。
- エ 丈助が、サッカーを純粹に楽しむ無邪気な存在として描かれているのは対照的に、一輝は、掲げた目標を達成するのに